

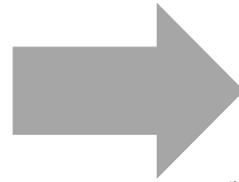
使用済燃料対策 – 貯蔵プールの安全性、乾式貯蔵施設への移送 –



ワーキングの詳細
はこちらから

論点No.90、91、92、93

使用済燃料貯蔵プールや乾式貯蔵建屋において、使用済燃料は安全に冷却できるのか。



第20回ワーキング
(2022.2.21) で議論

ワーキングチーム検証結果

新規制基準に基づき使用済燃料プールの冷却機能や注水機能が強化されていること、また、使用済燃料は、同じく新規制基準に基づき安全性が確認された乾式貯蔵建屋へ早期に移送する方針となっていることなどを確認。

ワーキングチーム検証結果（抜粋）

○使用済燃料の乾式貯蔵施設での貯蔵

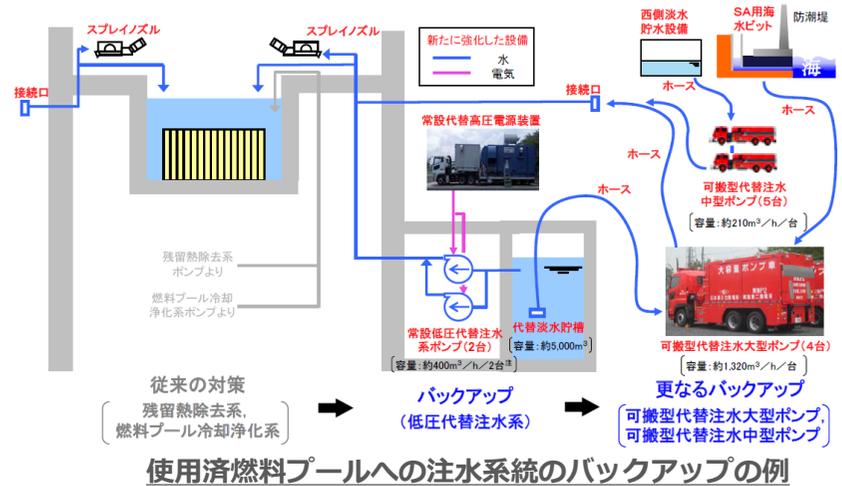
- 使用済燃料について、東海第二発電所では、使用済燃料プールのほか、**使用済燃料乾式貯蔵施設で保管**。
- 乾式貯蔵施設は、冷却方法が外気を利用した自然対流冷却であり、動的設備を使用しないことから、**高い信頼性・安全性**を有する。
- このため、日本原電は、使用済燃料を**早期にプールから乾式貯蔵施設へ移送する方針**としている。
- プールから乾式貯蔵施設に使用済燃料を移送するには、**最低7年以上のプールでの冷却期間**が必要。



使用済燃料乾式貯蔵施設
使用済燃料の乾式貯蔵の概要

○使用済燃料貯蔵施設（使用済燃料プール、使用済燃料乾式貯蔵施設）の安全対策

- 福島第一原子力発電所事故では、使用済燃料プールの注水に係る水源が枯渇するなど、使用済燃料プールの冷却に苦慮。
- この教訓を踏まえ、東海第二発電所では、新規制基準に基づき、使用済燃料プールの冷却機能や注水機能について、**水源の増強や冷却・注水システムのバックアップの設置などの対策**を講じている。



- 乾式貯蔵建屋については、基準地震動や基準津波などに対する安全性を確認しているほか、防潮堤を超えて津波が押し寄せ、**仮に貯蔵容器が水没しても健全性が確保されること**、航空機落下による火災に対しても閉じ込め機能の監視に影響がないこと等を確認。
- なお、使用済燃料は六ヶ所再処理工場及びリサイクル燃料備蓄センターに順次搬出を計画。